

グアムでの6日間

松本 亜古

今回グアム青少年交換派遣事業の団長として、学生リーダー、8名の中学生とともに Guam を訪れました。私にとっても初めてのホームステイ。中学生同様、期待に胸を弾ませていました。団長を任命され、13回生のメンバーが決定してから約3ヶ月、6回のオリエンテーションと2回の自主ミーティングを通して私たちのチームワークは素晴らしいものになりました。事前にホストフレンドとメール交換すること、国際電話をかけてみることに、プロフィールを作成して St.Francis 校に送ること。これらの課題をこなすことで、より一層グアムが身近に感じられさまざまな不安も解消されていきました。学校で披露するパフォーマンスにも色々なアイデアが出され、各人が積極的に取り組み準備は着々と進められました。

グアムで私と榎尾さんの二人がお世話になったホームステイ先は St.Francis 校の校長先生である ST マーシャの所属する修道院でした。修道院と聞いて規律等々厳しく、窮屈なものかと思っていましたが、私たちゲストに対してはとても寛大で、快適な毎日を過ごすことができました。学校からさらに山の手位置し、修道院が経営する高校に隣接した、明快なプランを持ったシンプルな建物でした。建築設計を仕事とする私にはとても興味深く、可能な限り建物の内外を探索しました。1階には食堂・ホール・談話室・ゲストルームがあり、ドアを介して高校につながっています。2階は主にシスターの個室と共同のシャワールーム・談話室がありました。談話室にはテレビやパソコンもあり、くつろげるようにソファが置いてあります。夜それぞれの日課を終えられたシスター達が、静かに本を読んだりテレビを見たりしていました。修道院の中では話し声も低く、自然と厳かな気持ちになります。時間がゆっくりと流れ、常に神と対話のできる神聖な場所です。

グアム生を引率し柏にいらっしゃるのは、科学の先生 MS.R-leen と数学の先生 MR.William。お二人とも若くて魅力のある先生です。フリーデーには各人の家族と楽しいひと時を過ごすことができました。

土曜日は William 先生のご両親の結婚記念パーティーに招待されました。家族や親しい人達20名程の、暖かくて和やかな集まりです。姉のメノーさん、姪のクリスティンはそれぞれ引率者・派遣生として柏を訪れたことがあります。思わぬ再開ができてとても嬉しかったです。食べて飲んで、おしゃべりして、瞬間に夜は更けていきます。この時ばかりは、修道院の門限が恨めしく思われました。



日曜日には R-leen 先生の親類が勤めるビーチで半日過ごしました。今回の私の目標は“**Yes I do!!**”日本にいたら到底しり込みするであろう、ジェットスキー・バナナボード・等々にもチャレンジしました。海で泳ぐのが苦手な私の手を引いて、ダイビングにも連れて行ってくれました。まさにコバルトブルーの海にすっかり魅せられた私です。夜は R-leen 先生の家で、女性だけのうちとけたパーティー。彼女はチャモロと違った文化を持つチュキの出身です。自分たちの習慣・文化を大切にしながら大家族が、お互い助け合ってグアムに住んでいます。

子供たちと一緒にフラダンスを踊ったり折り紙をしたり、私の大好きなココナツキャンディー作りを伝授してくれました。またまた門限を過ぎてしまい、マーシャ先生の電話であわてて修道院に戻りました。

今回のグアム訪問で、たくさんの暖かいおもてなしを受け、『人を敬うこと、自然を大切にすること、心を開くこと、思いやりを持つこと』の大切さを再認識しました。文化や習慣、言葉が違って、人として生きていくうえで大切なことは何も変わりません。このような貴重な体験をする機会を与えてくださった KIRA メンバー、家族、そして13回生のみんなにとっても感謝しています。ありがとうございました。